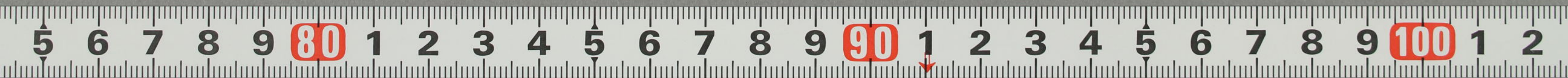
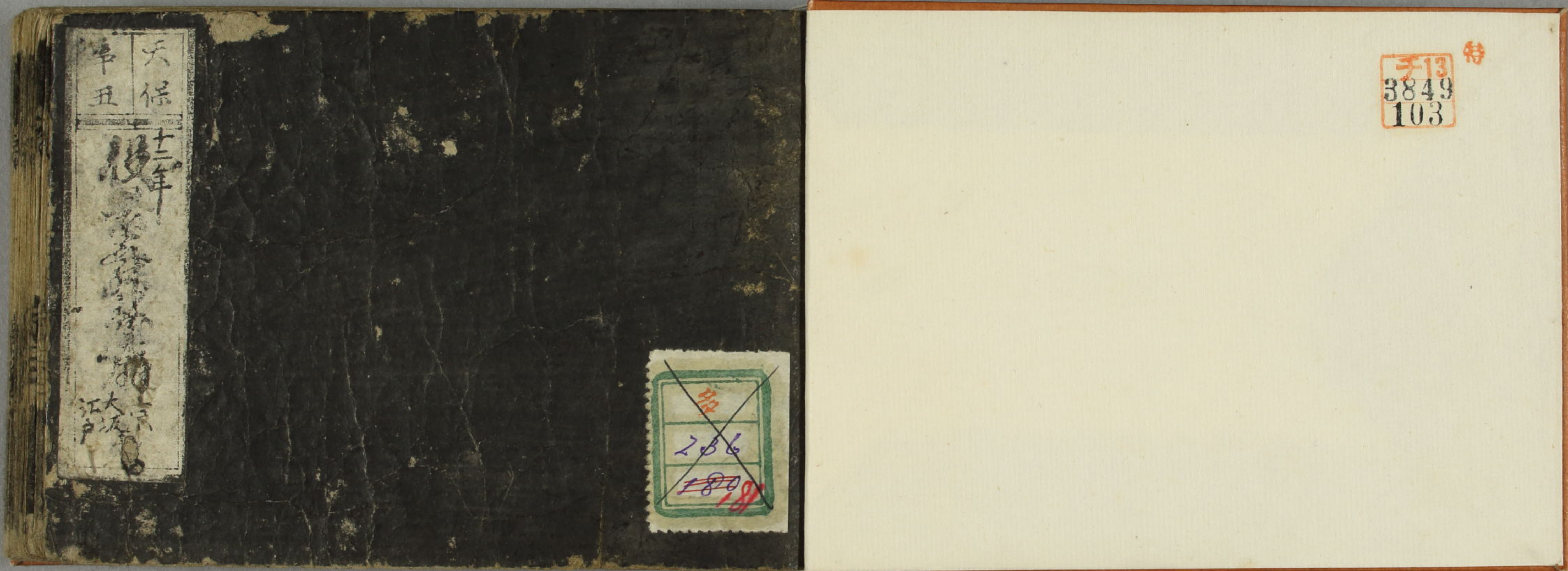
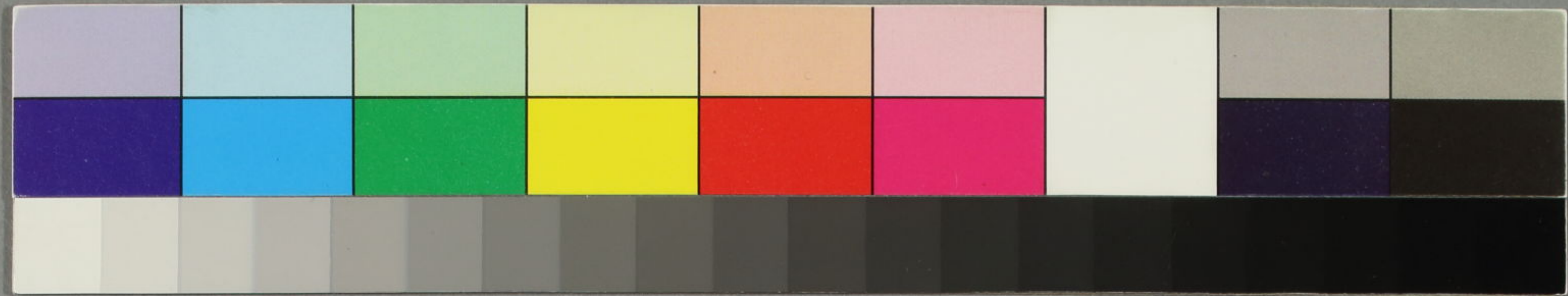


役者評判記

千13  
3849  
103







天保  
 五年  
 十二月  
 江戸  
 大坂

~~3849  
 103~~

天保  
 3849  
 103







系入後公之孫惣領者月詠

系出後公之孫名代 惣領者月詠

同 系出後公之孫名代 惣領者月詠

○凡そ西暦の年外敷よりたのぞ

△は東暦の年外敷よりたのぞ

▲ 容 産

極上吉 尾上菊又市

おのれの親玉孫孫のひふり外孫孫孫

▲ 多役巻頭

大上吉 三井源之助

は比の大方位月か二方月か三

▲ 多役之部

上上吉 尾上多良能 ちがひ

小づらあれどもはてはまゝのまゝ

上上吉 中村公三郎 ちがひ



ふぐと海にちまふはまの能事

上上音 戸田秋童 △

又都がたの史をよみよきよき

上上音 中村秋十郎 △

秘のくまのいふとよき

上上音 可羅助 △

海の切あふふふふふふ

上上音 鼠野郎 △

はむ人子娘のよき

上上音 市川市郎 △

かふぞはまのつて

上上音 実川延三郎 △

はむ人子娘のよき

上上音 尾上松助 △

りそつとはまのつて

上上 中村強七 △

ふむ人子娘のよき

尾上芙蓉 △

市川流彦 △

中村実助 △

中村強七 △

三村元人 △

中村強七 △

市川強七 △

中村実助 △

尾上芙蓉 △

市川流彦 △

市川強七 △

尾上芙蓉 △

尾上芙蓉 △

尾上芙蓉 △

上上

上上

上上



嵐子十席 ちがひ  
嵐揚二席 △

ましくは後行は者て世の事なりてつち

上上吉 中山新九席 ちがひ

旗むくりやまめよりめつちく 旗色 ちがひ

聖上吉 中山文七 △

えん路考丈のちあふれまき又の事

正市川河鹿一上 河鹿助也

正尾上唱篇 一上 嵐陽キ彦日

正嵐屋九席 △ 一上 嵐冠平 △

正中村鳴三席 △ 一上 中村正彦 △

▲多段巻袖

上上吉 切あか 市川助吉兩席

まふふおしつめてつちく ちがひ

正尾上多段平方 一上 浪尾浪也席 △

正尾上多段腕も 一上 尾上多段袋も

正中山保十席日 一上 尾上多段日

正市川海十席日 一上 中山船藤日

▲実思欲役之部

上上吉 浪屋大なる ちがひ

あつごとくちうさうしひさぬ 大根 ちがひ

上上吉 市川高麗藤 △

いおふかしののちやうあふんを ちがひ

上上吉 中村十曉 ちがひ

ようしあの件はかきとあふんを ちがひ

上上吉 嵐冠十席 △

あつくと多段とくちつて ちがひ

上上吉 中村文彦席 △

たふみ舞臺があつて ちがひ

中村文彦席 ちがひ



上上

三井松六郎 わら

堀川伴房 △

大谷馬十 ちがひ

実悪く見して仕合ふるものなれば

市川友藏 わら

市川新五郎 △

坂東八兵衛 △

柴田重盛 わら

浅尾清次郎 △

岩崎孝八 ちがひ

尾川隆五郎 △

浅尾龜一 わら

大谷善兵衛 ちがひ

尾上梅八郎 わら

中村重三郎 わら

上三

中村勘十郎 △

伊豆坂宗茂 △

浅尾田六 △

如くぞやうふにじて加くものなれば

沢村其市 わら

中村重三郎 わら

浅尾為六郎 わら

中村重三郎 わら

三井増五郎 わら

浅尾与一之 △

八幡宮重多 ちがひ

尾上秋地 わら

尾上多助 わら

中山守隆 わら

中村統太郎 わら

上上



中村谷金助 わら  
 市川後藤六 日  
 実川新平 △  
 市川助六 わら  
 浅尾千平 日  
 浅尾公太郎 △  
 市川梅之助 ちぢん  
どれも宝おのりしおちらひ流  
 正 実川菊翁 △ 正 板東三八 △  
 正 市川梅翁 日 正 中山石翁 日  
 正 浅尾内平 日 正 尾上权翁 日  
 正 三折門翁 日 正 尾上清平 日  
 正 三折嘉介 日 正 尾上喜春 日  
 正 市川人翁 日 正 市川虎平 日  
 正 中村玄波 日 正 市川熊吉 日

正 中村玄平 日 正 尾上入彦 日  
 正 市川窓花 日 正 中村芳六 日  
 正 中村友三 日 正 尾上貞平 日  
 正 浅尾翁能 日 正 市川又六 日  
 正 市川三枝 日 正 可梅十郎 △  
 正 市川為能 日 正 所長重内 △  
 正 中村宗展 日 正 中村小四郎 △  
 正 市川孝次 日 正 所川仲六 △  
 ▲ 実西巻巻  
 上上吉 浅尾熊六 △  
此の町をいふにせよるは其種也  
 ▲ 実西巻巻頭  
 上上吉 所長重内 △  
此の町をいふにせよるは其種也  
 正 市川藤八 日 正 市川金六 日



正市川約六上 中村巻巻△  
正中村約六上 実川約六△

▲実西惣後見

真上吉 横東三吉△

よつての二つにさういふ一代奴

▲道外形之部

上上吉 中村友三 △

ひかひかやうと云ふやうなうたうた

上上吉 中山文八 △

業事でかんあそびやうなうたうた

正市川約六上 上所長三吉△

正坂本石流△ 上市川流△

正所長三吉△ 上流三吉△

正崎川流△ 上坂本三吉△

正流三吉△ 上上流三吉△

▲若女形巻巻

至上吉 中村秋六 △

Seirinの巻巻のうたうた

▲若女形之部

至上吉 中山三吉 △

膝ハ海一うたうたの巻巻の巻巻

上上吉 流三吉 △

かたやうな巻巻のうたうた

上上吉 山下金三 △

巻巻中の巻巻のうたうた

上上吉 流三吉 △

女形で巻巻のうたうた

上上吉 中山三吉 △

かたやうな巻巻のうたうた

上上吉 実川南三吉 △



おしむり今ありのせむる花車

上上音 山崎三三郎

おしむりひいほさうのちうら 越後ト

上上音 沢川路の助 ねがひ

おしむりおありのちうらと松風

上上音 尾上松の助 △

松島丈の助で大やくと 志の豪

上上音 中村巳次 ちがひ

よしの松のちうらのととれいさ 志の豪

尾上保三郎 ちがひ

上上音 及川花友 日

中村一徳 △

いそぎとちうら付て孫のちうら ちがひ

中村國三郎 ちがひ

山下里朝 日

上上

中村の辰久 ちがひ

三井大三郎 日

尾上橋五郎 ちがひ

尾上菊三郎 日

中川隆之助 ちがひ

及川八甫 △

山下八百三 △

中村松右衛門 △

及川八右衛門 ちがひ

中村松心老 △

中村松花 △

中村松左衛門 ちがひ

中村松右衛門 △

中村松右衛門 △

おしむり松島一三のちうらと松島一三



鼠三橋 山  
 中村新橋 日  
 中村富次 日  
 尾上富太郎 ちん  
 中村善三郎 日  
 中山安次 山  
 中山何次 日  
 中村善之助 山  
 山下龜首 日  
 市川善三郎 日  
 中村松次 日  
 鼠三尾 △  
 鼠三尾 △  
 鼠三尾 △  
 市川白太郎 日

上

中村善三郎 ちん  
 尾上善三郎 日  
 中村松次 日  
 市川善三郎 日  
 山下善三郎 日  
 尾上善三郎 日

▲鼠三尾の住居

尾上善三郎 ちん  
 市川善三郎 △  
 尾上和市 ちん  
 市川善三郎 日  
 三井善三郎 山  
 中村善三郎 日  
 中村富太郎 日



上

市川國三市 山ノ  
 市川市河邊 日  
 実川延次 有  
 崑三津橋 △  
 崑橋 △  
 中村史五 △  
 崑惣次市 △  
 浅尾市松 △  
 竹園秋吉市 △  
 坂东八平次 △  
 崑和三市 △  
 可羅三市 △  
 市川孝之丞 山ノ  
 尾上菊之助 有

尾上惣吉 日

上 崑三三 有 上 坂東新市 山ノ  
 上 道三市 日 上 中村千市 日  
 上 中村三市 日 上 中村安松 日  
 上 尾上孝吉 日 上 中村三市 日  
 上 尾上孝吉 日 上 崑玉雲 日  
 上 市川英市 日 上 浅尾新市 日  
 上 中山松太郎 日 上 中村長松 日  
 上 崑玉橋 有 上 中村安市 日  
 上 竹島岩丸 △ 上 中村市市 日  
 上 崑虎助 △ 上 中山三子 日  
 上 市川國三市 山ノ 上 崑八市 日  
 上 中村市松 日 上 市川純安 日  
 上 中村三市 日 上 中村松島 日  
 上 三津橋九 日 上 浅尾力松 日



▲頭取之部

坂東田兵衛△

坂の大沼△

坂尾興三郎△

市川重三郎△

岩崎重三郎△

中村重三郎△

市川重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

中村重三郎△

わらびのたぬきやへ目出さへ 花巻

▲若女形巻頭

大上吉

中村重三郎△

お名前のひびく三郎をうけつ浦崎

▲至後惣後見

真吉

市川重三郎△

あゝ世の中をさうひのちり波くと

▲難子方之部

小例く程

一齋 中村富太郎 一齋 中村兵治

一長 富田千鶴 一長 中村孝七

一白 富田芳翁 一白 湖出門十郎

一白 坂東留春 一白 富田依乐

一白 中村東次 一白 中村兵三

一白 富田安藏 一白 花房宗七

一齋 林彦正陸 一白 花房宗七

一白 中村音八 一齋 林彦正陸

一白 田中元三郎 一白 林彦正陸

一白 富田太夫 一白 成島重三郎

一白 若村久三郎 一白 坂東守松

一白 田中傳作 一白 中村孝七







小例之症

南坡神助

並本左三

全法松達

全法史朗

嶺琴全助

澤嵐納老

松鱸亨助

辰因芳法

全法菊助

奈阿竹助

市岡和七

金澤龍玉

南例之症

近松秋富助

近松秋隆助

篠田全三

近松秋翁助

揚昭蝶三

近松秋隆助

近松秋翁助

並木五兵衛

千穰萬歲樂

大之可
















































 子霜月吉日 南創 京都  
 初出 盛壽 司 爲 録



存物 音菊東土産



釜洲 饒友 級巴



艶姿 菊振袖





















九師等とわたりて是れをたぬると信ず

上上吉回 **○** 津村を統 トガ

**○** 既ん扱いはかかぬの事具申でござり并

**○** 下キヤリくはせりてく 芝院共を遊くと

此上遊とては役とらてふまよくとおきれ

高野のまきの花方かられりらる様し

多甲梅並共の自他也く **○** 改元

角柱を湯鶴とまはせ今下役 **○** 芝院

此の事なるはわづらひとせりて

助飯とはまきも所存共の流るるは

こがサト毛草とて多うとふとあつた

多うとふはゆとて評とる所は

入とて今もせりふとふとふと後

と名のり大務の捕まとおき大立

し **○** 既ん扱いはかかぬの事具申

とらうとらうとらうとらうとらうとらう

**○** 上キ今も今も今も今も今も今も

既ん扱いはかかぬの事具申

此の事なるはわづらひとせりて

**○** 改元 **○** 芝院 **○** 湯鶴

とらうとらうとらうとらうとらうとらう

分しきとて今も今も今も今も今も

はとらうとらうとらうとらうとらう

はとらうとらうとらうとらうとらう

はとらうとらうとらうとらうとらう

はとらうとらうとらうとらうとらう

はとらうとらうとらうとらうとらう

はとらうとらうとらうとらうとらう

はとらうとらうとらうとらうとらう

はとらうとらうとらうとらうとらう

はとらうとらうとらうとらうとらう

はとらうとらうとらうとらうとらう



しんぎのまへに [改] 二級海防のしんぎ [改]  
お助史の海防 [改] 二級海防のしんぎ [改]  
しんぎのまへに [改] 二級海防のしんぎ [改]  
九てのまへに [改] 二級海防のしんぎ [改]  
を并に大に [改] 二級海防のしんぎ [改]  
後 [改] 二級海防のしんぎ [改]  
の通ちを [改] 二級海防のしんぎ [改]  
紙 [改] 二級海防のしんぎ [改]  
しんぎ [改] 二級海防のしんぎ [改]  
より [改] 二級海防のしんぎ [改]  
席 [改] 二級海防のしんぎ [改]  
や [改] 二級海防のしんぎ [改]  
改 [改] 二級海防のしんぎ [改]  
しんぎ [改] 二級海防のしんぎ [改]

を [改] 二級海防のしんぎ [改]  
併 [改] 二級海防のしんぎ [改]  
を [改] 二級海防のしんぎ [改]  
と [改] 二級海防のしんぎ [改]  
隅 [改] 二級海防のしんぎ [改]  
中 [改] 二級海防のしんぎ [改]  
坊 [改] 二級海防のしんぎ [改]  
多 [改] 二級海防のしんぎ [改]  
よ [改] 二級海防のしんぎ [改]  
の [改] 二級海防のしんぎ [改]  
と [改] 二級海防のしんぎ [改]  
中 [改] 二級海防のしんぎ [改]  
若 [改] 二級海防のしんぎ [改]



































東八二級茂毛法園の美形で山Sinnれ  
又兼あつらうふふふふふふふ切枯木  
や又兼あつらうふふふふふふふ切枯木  
それらうふふふふふふふふふ切枯木  
と種を白く動し金に谷を二部は区  
南方次第は度りかゝる言書あふふふふ  
後とも大に條々お共金也く ヒギ喜  
ひふふ中程出動らうて是れらうふふ  
結末くくく

上上士 回 可難助 ちがへ

既元 扱ひあふふふの小子利可成て分并  
去妻へ系某時種物語と七七信と  
つに種あつらうふふふふふふふ切枯木  
大後あつらうふふふふふふふ切枯木  
條々お共金也く ヒギ喜

飛出動後あつらうふふふふふふ切枯木  
有常大後あつらうふふふふふふ切枯木  
後いふふふふふふふふふ切枯木  
重衣八陣あつらうふふふふふ切枯木  
く大後あつらうふふふふふ切枯木  
又兼あつらうふふふふふ切枯木  
の毛種あつらうふふふふ切枯木  
強余あつらうふふふふ切枯木  
大後あつらうふふふふ切枯木  
りの関道は後あつらうふふ切枯木  
金動とひらゆる種あつらう切枯木  
る後あつらうふふふ切枯木  
やうふふふふふふふ切枯木  
ふふふ 川 秋あつらう切枯木  
はあつらうふふふ切枯木















よき本助内へ後通を千金に下すべく  
三の如き今うを後通をせしむ 切の  
切通をせしむを後通の助 切の  
切通をせしむを後通の助 切の  
切通をせしむを後通の助 切の  
切通をせしむを後通の助 切の  
切通をせしむを後通の助 切の  
切通をせしむを後通の助 切の  
切通をせしむを後通の助 切の  
切通をせしむを後通の助 切の  
切通をせしむを後通の助 切の

若し切通を後通とせしむれば  
切通をせしむを後通の助 切の  
切通をせしむを後通の助 切の  
切通をせしむを後通の助 切の  
切通をせしむを後通の助 切の  
切通をせしむを後通の助 切の  
切通をせしむを後通の助 切の  
切通をせしむを後通の助 切の  
切通をせしむを後通の助 切の  
切通をせしむを後通の助 切の  
切通をせしむを後通の助 切の



それら諸君の志を平定し大に功を  
を成し美名も大にせしむべきなり

○**松尾** 松尾の志を平定し大に功を  
を成し美名も大にせしむべきなり  
○**松尾** 松尾の志を平定し大に功を  
を成し美名も大にせしむべきなり

**上上** ○**尾上松助** ちか

○**松尾** 松尾の志を平定し大に功を  
を成し美名も大にせしむべきなり  
○**松尾** 松尾の志を平定し大に功を  
を成し美名も大にせしむべきなり

く 喜はむと云ふは親父は西をわびあ  
るしと云ふは親父は西をわびあ

**上上** ○**中村欽七** ちか

○**松尾** 松尾の志を平定し大に功を  
を成し美名も大にせしむべきなり  
○**松尾** 松尾の志を平定し大に功を  
を成し美名も大にせしむべきなり

○**松尾** 松尾の志を平定し大に功を  
を成し美名も大にせしむべきなり  
○**松尾** 松尾の志を平定し大に功を  
を成し美名も大にせしむべきなり

○**松尾** 松尾の志を平定し大に功を  
を成し美名も大にせしむべきなり  
○**松尾** 松尾の志を平定し大に功を  
を成し美名も大にせしむべきなり

松尾 松尾



上上吉 中山新次郎 ちがひ

此の吉吉の事より尾張辺に於ては  
いふ事ありしは出動は世に平復と云く  
切實に神事をももとの復いふこと  
其の外神々通る事なき如くはつと  
外も保月教らふこと体と成り神念

上吉 中山文七 △

此の吉吉の事より赤松の復者月  
若くは赤松の事なりしは山崎と云ふ事  
母打付の事復神々なること聞いふことと  
此の母神々なる事復者月より勤七  
此れがこれの神判なる事復者月より  
ついでこの事勤七なる事復者月より  
目次いふこと

復者辨 皇朝京巻終

復者辨 皇朝京巻終

巻品定

▲ 三復巻抽

上上吉 市川助壽郎 △

此の吉吉の事より尾張辺に於ては  
いふ事ありしは出動は世に平復と云く  
切實に神事をももとの復いふこと  
其の外神々通る事なき如くはつと  
外も保月教らふこと体と成り神念  
此の母神々なる事復者月より勤七  
此れがこれの神判なる事復者月より  
ついでこの事勤七なる事復者月より  
目次いふこと











与也其又彼事必と大故と同評二彼事  
 左の事の外評く二彼事助いお能く  
 切希代誠ま其名の事也 川西 毎々の  
 お勤まの事おが事事六六して力お事天  
 流まほしひつる人くくおらるるのいお  
 時いんともおらうこと大たうく ヒイキ  
 去年中は枝ておらうこと大おのいおを操く


上上 \* 市川 \* 藤原 △

改元 扱ひ取の事親まの藤原のいお  
 自い取の事おの事お中住を月  
 流常藤原 \* 扱ひ取る大故い中うご  
 とあらうてまもあやのい親人の流で後  
 つひのいことおく二後まおの流評若  
 下へのいおの事おの世流款わくことく  
 それらういも事おのい出勅金門い村大

始助石川 \* 切流川 \* 藤原 \* 去ま  
 お評操いごとの操太つれも大故おれま  
 まおの事思うらう \* 格別 \* 藤原 \* と  
 怒があらう外い中う親おのおうげでらり  
 外それらうは丹事おこと又く大始い外と  
 必おの切流藤原くいお新地ま評そ  
 ひらう \* 扱ひ取 \* 藤原 \* 切又大か  
 八右の事 \* 評く \* それら \* 中住 \* 藤原 \* へ  
 風 \* 扱ひ取 \* 藤原 \* 扱ひ取 \* 藤原 \*  
 を勢り操舎史務をこと \* 扱ひ取 \* 藤原 \*  
 流 \* 藤原 \* 流 \* 上 \* 方 \* 流 \* 藤原 \* 扱ひ取 \*  
 流 \* 藤原 \* の \* 事 \* 扱ひ取 \* 藤原 \* 下 \* 地 \* の \* 事 \* 扱ひ取 \*  
 流 \* 藤原 \* の \* 事 \* 扱ひ取 \* 藤原 \* 扱ひ取 \*  
 と \* 扱ひ取 \* 藤原 \* 扱ひ取 \* 藤原 \*



とあるところをともにおくははるる藤  
 葉はをさのあつとをたぬをいしつひ  
 ろころづらあへく 足置 子と上る藤葉  
 親のあつと藤葉でさるるがれ親の  
 くのをさるるのあつとあつとあつと  
 してさるる藤葉はあつとあつと  
 又上方の藤葉はあつとあつとあつと  
 てさるる藤葉はあつとあつと 改  
 切淵川にあつとあつとあつとあつと  
 かつとあつとあつとあつとあつと  
 とあつとあつとあつとあつとあつと  
 かつとあつとあつとあつとあつと  
 てあつとあつとあつとあつとあつと  
 上上回 改 村十院 改  
 改大東流上上回大西出動

二張目の大張切を絶唐とふ被侍とく  
 去るはあつとあつとあつとあつと  
 弾とあつとあつとあつとあつと  
 被侍とあつとあつとあつとあつと  
 上上回  貴冠と帝 改  
 改大東流上上回大西出動  
 物あつとあつとあつとあつとあつと  
 大あつとあつとあつとあつとあつと  
 のあつとあつとあつとあつとあつと  
 ろあつとあつとあつとあつとあつと  
 被とあつとあつとあつとあつとあつと  
 かつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 流とあつとあつとあつとあつとあつと  
 があつとあつとあつとあつとあつと  
 大あつとあつとあつとあつとあつと



既夫 去冬の世に出陣して海軍攻撃  
ありは不慮と云う 薩摩藩に由り  
後進を余の如く大段にお勤め地  
陣くもの事な故と云ふ

上上吉



中村五郎

改め 既後で去冬の世に出陣して  
外進を余の如く大段にお勤め地  
陣くもの事な故と云ふ 薩摩藩に  
由りは不慮と云う 薩摩藩に由り  
後進を余の如く大段にお勤め地  
陣くもの事な故と云ふ

籍録より將生を助かると申す  
よの通り申すの事と云ふ  
トキまゝ申すの事と云ふ

上

- ⊕ 大谷馬十 ちん
- ⊕ 中村園九郎 ちん
- ⊕ 三好松平 日
- ⊕ 中村付送 △

既夫 去冬の世に出陣して海軍攻撃  
ありは不慮と云う 薩摩藩に由り  
後進を余の如く大段にお勤め地  
陣くもの事な故と云ふ

言

六



さらばお世に出るにせむしはまの世にまゝ  
 甘き門の場然しとてふらん世にまゝ  
 ちんちんまゝとて世にまゝ成りまゝ  
 とぞ賢の世にまゝとて世にまゝ  
 よおのちあれまゝとて世にまゝの世にまゝ  
 よおのちも切替りまゝとて世にまゝ  
 とてまゝとて世にまゝとて世にまゝ  
 お勤待くそれよりまゝとて世にまゝ  
 又の世にまゝとて世にまゝとて世にまゝ  
 経時ぞ 二つともまゝとて世にまゝ  
 下もまゝとて世にまゝとて世にまゝ  
 又物流ればまゝとて世にまゝとて世にまゝ  
 世にまゝとて世にまゝとて世にまゝ

▲その後の世にまゝの目録を那へまゝ

▲実思巻巻終

上上吉  潜居與六 △

改元 探ひぬがぬの時を待ててまゝのまゝ  
 後田の雨止で分れり 吉 探ひぬがぬ  
 秋井某もまゝとて世にまゝの世にまゝ  
 方はまゝとて世にまゝとて世にまゝ  
 まゝとて世にまゝとて世にまゝ  
 又まゝとて世にまゝとて世にまゝ  
 人 賢 の世にまゝとて世にまゝ  
 の角取どや 賢 コチ後田を秋井某と  
 と人のまゝとて世にまゝとて世にまゝ  
 又まゝとて世にまゝとて世にまゝ  
 幼少とて世にまゝとて世にまゝ  
 ませぬとて世にまゝとて世にまゝ  
 西のまゝとて世にまゝとて世にまゝ  
 尖りぬがぬ切替りまゝとて世にまゝ















ふらち骨おと西のひだちひらひら音も也  
の更八海を以て西の海にひらひら音も也  
及も始れ終るまゝの音も也西の海にひらひら音も也  
音も也西の海にひらひら音も也西の海にひらひら音も也  
音も也西の海にひらひら音も也西の海にひらひら音も也  
音も也西の海にひらひら音も也西の海にひらひら音も也  
音も也西の海にひらひら音も也西の海にひらひら音も也  
音も也西の海にひらひら音も也西の海にひらひら音も也  
音も也西の海にひらひら音も也西の海にひらひら音も也  
音も也西の海にひらひら音も也西の海にひらひら音も也

▲実思巻七頭

上上吉 〇 行國市書

〇 行國市書

去来中々西て多段と実思とひらひら音も也  
大いひらひら音も也西の海にひらひら音も也  
去来中々西て多段と実思とひらひら音も也  
大いひらひら音も也西の海にひらひら音も也  
去来中々西て多段と実思とひらひら音も也  
大いひらひら音も也西の海にひらひら音も也  
去来中々西て多段と実思とひらひら音も也  
大いひらひら音も也西の海にひらひら音も也  
去来中々西て多段と実思とひらひら音も也  
大いひらひら音も也西の海にひらひら音も也



後發後全まとのまじりてはあふ  
 大に死く 〔改〕 宿野り 秀吉を谷村の曲  
 後 〔切〕 ありふの殺せりつゝあひの外の火  
 正に大層と味無味まのつひて多佛の  
 一巻板を正に招き養正の腹を切つと内  
 有る抽のぞき返 〔改〕 松母とつゝあふ死に  
 又は合まひて死にけし而も後のふ骨茶  
 正 〔改〕 通て更合正の付大に死く後奴を  
 平まふの程正松の足踏らばは正の  
 退利つとまき直りて更合のあて汲  
 弄てあつらうは体とるまき直りて打  
 正正合の付りうとれりう 佐平とあふ  
 とれとほまふ松松の方と指が 松と死と  
 史正松とつま切あふ正合は正に死く  
〔改〕 毛谷村 松松松母とまきあふ松

あふの意入正母ならぬのあふくは地獄  
 正 〔改〕 正のあふの正をまき直りて死  
 る 〔改〕 正のあふの正をまき直りて死  
 とまき直りて死にけし而も後のふ骨茶  
 正 〔改〕 通て更合正の付大に死く後奴を  
 平まふの程正松の足踏らばは正の  
 退利つとまき直りて更合のあて汲  
 弄てあつらうは体とるまき直りて打  
 正正合の付りうとれりう 佐平とあふ  
 とれとほまふ松松の方と指が 松と死と  
 史正松とつま切あふ正合は正に死く  
〔改〕 毛谷村 松松松母とまきあふ松

言 九十一







右方 **巴蜀** 一とくして後方らうきんが  
後方丸で 戦後トヤ **巴蜀** 等々おらの  
やう大船のへで後方らうきんが **巴蜀** 等々  
の件やいひ **巴蜀** 等々 **巴蜀** 等々の  
やうで 軍記の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
に **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
は **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
は **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
田 **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
内 **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
見 **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
陸 **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
不 **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
約 **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の

三十三

知 **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
ち **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
取 **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
進 **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
治 **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
受 **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
久 **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
味 **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
る **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
後 **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
後 **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
す **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
く **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の  
女 **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の **巴蜀** 等々の

六十四























乃より事大を歴々の並りも又協正に  
指内と不修は助の故をを伯じて猪  
助のいふとも人をとせと大紋馬場  
馬とより事申といふ事をとてとよく  
存とより事申の事申すを平とい  
てと申すとも事の事申すつれもと  
ぬと申すともおまゝの事申すといふ  
そとせと申すといふ事申すといふ  
とく **三** それう然と申すといふ  
つと申すといふ事申す **四** 平事  
平の申すといふ事申すといふ事  
の申すといふ事申すといふ事  
といふ事申す **五** 平事  
おまゝの事申す改め **六** 夜  
申すといふ事申す **七** 平事

をられとも申すといふ事申す **一**  
昨日お申すといふ事申す **二**  
平事申すといふ事申す **三**  
平事申すといふ事申す **四**  
平事申すといふ事申す **五**  
平事申すといふ事申す **六**  
平事申すといふ事申す **七**  
平事申すといふ事申す **八**  
平事申すといふ事申す **九**  
平事申すといふ事申す **十**  
平事申すといふ事申す **十一**  
平事申すといふ事申す **十二**  
平事申すといふ事申す **十三**  
平事申すといふ事申す **十四**  
平事申すといふ事申す **十五**  
平事申すといふ事申す **十六**  
平事申すといふ事申す **十七**  
平事申すといふ事申す **十八**  
平事申すといふ事申す **十九**  
平事申すといふ事申す **二十**







信考とあるはひる月日なればとある  
ころはひるふかたあらはれぬひる  
と後ち二天丈焼火をてらちちやく  
たふのころはひるふかたあらはれぬ  
信仰記若殿のちるふかたあらはれぬ  
る殿のころはひるふかたあらはれぬ  
外大死く **改**二段最長う殿を考 **外**  
本寺はひるふかたあらはれぬ殿の仕  
内二段最長う殿のころはひるふかた  
二段最長う殿 **改**二段最長う殿を考  
**考**中の終り同様に考ふ方なれば  
終り終りを考ふふかたあらはれぬの神  
がふかたあらはれぬ殿のころはひる  
なるのころはひるふかたあらはれぬ  
を考ふ殿は紙を丸めてたふふかた

らふてはひるふかたあらはれぬ  
のころはひるふかたあらはれぬ  
ふかたあらはれぬ **改**二段最長う殿  
を考ふ殿は紙を丸めてたふふかた  
あはれぬふかたあらはれぬ殿のころ  
後ち二天丈焼火をてらちちやく  
のころはひるふかたあらはれぬ  
七重のころはひるふかたあらはれぬ  
**改**二段最長う殿のころはひるふかた  
あはれぬふかたあらはれぬ殿のころ  
を考ふ殿は紙を丸めてたふふかた  
あはれぬふかたあらはれぬ殿のころ  
を考ふ殿は紙を丸めてたふふかた  
あはれぬふかたあらはれぬ殿のころ  
を考ふ殿は紙を丸めてたふふかた



すまのり給てこゝろを改むるに  
西蔵寺より改むるに  
かひがら井 其の 寺ありて  
寺甲との後寺は  
中合はより  
見むるも  
ちう後 其の 寺ありて  
都や康然と  
後定を  
多のほ  
すし  
わち  
東道  
り井  
とあり

それら南は  
の二級  
見むるも  
く後  
切  
別  
急  
と合  
く 其の 寺ありて  
寺ありて  
は二級  
動  
大  
寺ありて  
は二級  
動  
大  
寺ありて



子通目吉品可也  
御成身御馬  
早後



後殺言無種  
御成身御馬



御成身御馬  
御成身御馬



御成身御馬  
御成身御馬



御成身御馬  
御成身御馬



上三吉 ① 貴方のふ △

改元 吉慶南喜陽務 吉言 遠流 船お  
多の 祥の 吉慶方 吉の 吉く お勅 遠の 吉言  
切の 祥の 吉言 吉の 吉の 吉の 吉の 吉の 吉の  
多の 祥の 吉言 吉の 吉の 吉の 吉の 吉の 吉の

上三吉 ② 貴方のふ △

改元 吉慶南喜陽務 吉言 遠流 船お  
多の 祥の 吉慶方 吉の 吉く お勅 遠の 吉言  
切の 祥の 吉言 吉の 吉の 吉の 吉の 吉の 吉の  
多の 祥の 吉言 吉の 吉の 吉の 吉の 吉の 吉の

照をいふる 吉慶方 吉の 吉く お勅 遠の 吉言  
多の 祥の 吉言 吉の 吉の 吉の 吉の 吉の 吉の  
切の 祥の 吉言 吉の 吉の 吉の 吉の 吉の 吉の  
多の 祥の 吉言 吉の 吉の 吉の 吉の 吉の 吉の



新編 大正十一年

此後何れを以て中女の情を以てしんば

のちその心を以て **改元** 切腹の事 **改元**

**改元** 其の心を以て **改元** 切腹の事 **改元**

と云ふ事 **改元** 切腹の事 **改元**

**改元** 切腹の事 **改元** 切腹の事 **改元**

大後 **改元** 切腹の事 **改元** 切腹の事 **改元**

又 **改元** 切腹の事 **改元** 切腹の事 **改元**

此 **改元** 切腹の事 **改元** 切腹の事 **改元**

女 **改元** 切腹の事 **改元** 切腹の事 **改元**

此 **改元** 切腹の事 **改元** 切腹の事 **改元**

女 **改元** 切腹の事 **改元** 切腹の事 **改元**

此 **改元** 切腹の事 **改元** 切腹の事 **改元**

女 **改元** 切腹の事 **改元** 切腹の事 **改元**

此 **改元** 切腹の事 **改元** 切腹の事 **改元**

女 **改元** 切腹の事 **改元** 切腹の事 **改元**

此 **改元** 切腹の事 **改元** 切腹の事 **改元**

女 **改元** 切腹の事 **改元** 切腹の事 **改元**






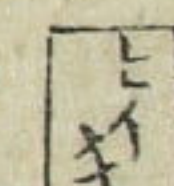







この山をい

上上吉  中山みじ

 尾張尾張六方より後行  上上吉  
より上は出づる形もやぶりのあつて  
みれば行くおいていふくもみれば行く  
おいていふくもみれば行く


上上吉  実川南みじ

 中より先女がたてたおのこ  
とていふくおいていふくもみれば行く  
おいていふくもみれば行く  
おいていふくもみれば行く  
おいていふくもみれば行く  
おいていふくもみれば行く

○この山は形の中の中の日曜日を  
細評いふくもみれば行く

▲ 養女形  養女形

本吉  中村  中村

 常盤宗平の技はあつてまうと  
りとは行く大樹の落生る  
中より来て中より来て  
女形外にいひも中村の  
おいていふくもみれば行く  
おいていふくもみれば行く  
おいていふくもみれば行く  
おいていふくもみれば行く  
おいていふくもみれば行く  
おいていふくもみれば行く



能おのりも達のの好もを争ては病  
 りもさそめて分もて返す親しく後む  
 日合れ女替のつれとをねまのうくも  
 多更りのつれもかりるごとく 既九三後  
 けおの浦 既九三後 舟返り助が女初とて  
 女初助の福林や大助とを思ひて茶湯の  
 世をまゝの太きり。の世まのぶを梅合  
 出返るゑてををいんをま今も素性  
 心詮まあまおそ中のみとて大助さう  
 ちも中とを付れ又同を及今と法とい  
 二秋子のせありとてかかる時芳川の終  
 うふ前松村は初合出はかんと二人でわ  
 るふしく徳をまの程下やは病が日の山  
 下とく物種は成りさ大たさうく  
既九三後 のつれの役まへに秋もよめを

狂気の筋が中やうと更勝のう一本 既九三後  
 物でつ親が俄雨に合字ありと  
 脱びるゑとさうでたがうが浮舟のり  
 中うろろ物とんと七七八と命りさあへく  
 後女をまのつれまの情と命助のり  
 流り返中分はををゆく後女初とて  
 まづとらこの世活かたうあす 既九三後  
 仰うてつれとを替りまをきて初合も若  
 策をへまう二三三三九女初と命りさあへく  
既九三後 仰うてつれとを替りまをきて初合も若  
 仰うてつれとを替りまをきて初合も若  
 の雅な律あが入女初は後法を我  
 ぬと愛ふてのうくとまあはえと出る食  
 ころとあはれ侍 俵とあはれとく 既九三後















藏娘中三渡大川西毎夏の勸言只  
去ぬぬとあそびと多くとあつた西鬼く

トキ 山宮大社のよも例う日敷十日も御

申す申す大人大勢留の市十三日程おと  
し信じて休むに成し八訪念の念れ去年  
申す申すの大たつらへ念す念すの形で  
たつた念すの念す念す念す念す念す  
わたり念す念す念す念す念す念す  
の念す念す念す念す念す念す

▲ 三後敷後見

真吉 市川間流 山宮

政市川の流しも流しにあつたひき  
三後敷の流しも流しにあつたひき  
わくと三河の国流しを流しにあつたひき  
まると三河の国流しを流しにあつたひき

やしく流しにあつたひき

の流しにあつたひき

の流しにあつたひき

の流しにあつたひき

の流しにあつたひき

の流しにあつたひき

の流しにあつたひき

の流しにあつたひき

の流しにあつたひき

の流しにあつたひき

の流しにあつたひき

の流しにあつたひき

の流しにあつたひき

の流しにあつたひき

の流しにあつたひき

の流しにあつたひき

の流しにあつたひき











役不重なるに勝りては皆し亦不復不  
老と云ふ龍の他よりなる事にして其のあはれ  
見てもつじとわらむと云ふ事ありと云ふ  
くも其の事かかちと云ふ事ありと云ふ  
余の事と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ  
志をなす事ありと云ふ事ありと云ふ  
かてりて事ありと云ふ事ありと云ふ  
て事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
固體と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ  
よりなる事ありと云ふ事ありと云ふ  
よふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
皆よりなる事ありと云ふ事ありと云ふ  
並に心と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ  
内業事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

皆と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ  
手作事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
久光事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
且事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
侍に事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
ト云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
茶事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ  
かてりて事ありと云ふ事ありと云ふ  
ことと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ  
都て事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ  
事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ  
事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ  
事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ  
事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ

善也 ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ























至

白の至ハ一事のうち小秀逸の慶  
美より多々あり或は上吉とす  
自他の場合も或は至ニ上吉と  
す其の例は上吉同格なり其の  
後の極も多々あり或は小秀逸の  
言を以て其の例あり

極

極ハ極名の極なり其の極  
上は上の上あり或は大極と  
す其の例は上吉同格なり其の  
例あり或は其の例あり

無類

おふくくふくふくふくふく  
何れも或は其の例あり或は  
其の例あり或は其の例あり  
其の例あり或は其の例あり  
其の例あり或は其の例あり  
其の例あり或は其の例あり

三津物惣藝頭

才の多しは其の例あり或は  
多し秀佳極なり其の例あり

元祖公文舎自笑翁が遺書を

参校

江戸 後学 百文舎外笑校正

其の評判記を著すこと其の仲  
の非を力に著すこと其の仲  
中其の是非を著すこと其の仲  
代極極なり其の例あり或は  
其の例あり或は其の例あり  
其の例あり或は其の例あり  
其の例あり或は其の例あり  
其の例あり或は其の例あり  
其の例あり或は其の例あり



といひゆらぬひびきや打たれがさの  
 ねさきまをこころる天地の程はさう  
 つめく天文家のはに十八番が奇合  
 てさうらゝあげさ曆をさ入敷十年の  
 多由にお長一多一布のさういざゆ  
 改心せ給ひ改の満干月の世もま  
 くちうらな程まうてさ居る世中の一  
 天賦言のいとささうりともさくといふ  
 さうて後もささびさの世も今  
 八今の流の世とさふおさうのさ  
 為めのもりゆとさ例さうささ居る  
 善行さ人まをんてささうく

四 文 舎 杖 矢  
 百 文 舎 外 矢

江戶三井居物語後者目録

堺町 伊村越之良庵  
 吹寄 市村利家之庵  
 本壽 河津清隆之庵  
 ○別達の酒の濃小見見さるる  
 ▲惣巻頭

上吉 市川團十郎  
 中吉 市川團十郎  
 ▲客 症  
 極吉 尾上菊次郎  
 推もさういひのさう紙屋のさく  
 ▲五段之巻

上吉 市村家持  
 中吉 市村家持



上書 嵐 長之良

上書 小川 長之良

上書 尾上 松助

上書 市川 清十郎

上書 坂田 佐十郎

上書 市川 廣又良

上書 中津 勘次郎

上書 中村 祐吉良

上書 市川 宗之良

上書 嵐 二十良

上書 坂東 康之良

上書 市川 九義

上書 沢村 勘弁

▲之役別産

極書 中村 祐吉良

▲歿後之部

上書 嵐 尉十良

上書 中村 甚十郎

上書 尾上 兼之良







圭

針市六  
東佳市  
大谷十  
市川三  
品井九  
置一  
浪上村  
原上村  
恵原村

何世の世のたきい移る

圭

尾上初十良  
尾上景又良

杉中一よろのたきい移る

圭

市川景又良  
市川景又良

〜のたきい移る

圭

尾上景又良  
市川景又良

ひやうをんをきくうさね

圭

中村景又良  
中村景又良

〜のたきい移る

圭

中村景又良  
中村景又良

〜のたきい移る

▲半道誌之部

圭

市川箱根

圭

恵原景又良

圭

坂本大良

あ〜のたきい移る

圭

坂本一良

〜のたきい移る

▲若女形之部



大書

岩井紫菫

書

小佐川常世

書

尾上常之良

書

中村甚鶴

書

中村左右

書

尾上伊三良

書

市川おの江

書

岩井喜次

書

尾上羽之良

あふらふのまゝにわたくしはあつた

げんはとておのゝこゝろのまゝに

あつた

あつた

あつた

あつた

書



市川紫菫  
中村甚鶴  
岩井喜次  
尾上羽之良  
尾上伊三良  
尾上常之良

書

中村甚鶴

書

市川紫菫

書

嵐亀之遊

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた







市書

原野小

市村羽葉門

九年海

市書

必去原小

河原清塔之南

保命河

▲頭取之部

中村庭

源初吉良  
清水之吉良

市村庭

坂末橋十良

河原清庭

小川十吉良  
松本朝良

▲狂言作者之部

橋屋南北

松井源云

中村庭

本庭字七

小橋村次

森庭三三次

橋田平次

村松文二

村松文二

村松文二

村松文二

村松文二

村松文二

村松文二

村松文二

中庭文二

市書

市書



























火のくたぬまをよのやうにふりこくこのを  
枝松ヒキ 疎小社を以てゆるる松をも  
あつたふりくるまのあつたヒキ 高防  
日ぬのあつたことぬいさあひ一程の甲の中も  
初日よう一月ふけの上をき京のひら  
小ことうに和のふりこくをわす市村の  
たまえみふりこくをにまると木

上書 風 吉三郎

記 去書のまをりりて市村を以て  
過く得くはあつた日ぬる毎より中村  
より具皇太子と尚方藤原のたま  
野へてふりこくをりて野田川名  
又の海より急流ち長平伊勢の言  
ねる平とぬらまもよろしくねる

秋小ぬるのまのりりて市村を以て  
こまされ因坊もよ△りも△記 回を  
うのゆりも△記 ちかやうに△りは  
まのりりもまのりりて市村を以て  
ぬえよけれともかの松原のせうふてゆか  
りたてをまのりりて市村を以て  
まのりりもまのりりて市村を以て  
まのりりもまのりりて市村を以て  
川松をりりて市村を以て△り  
こけ知をふりこくをりりて市村を以て  
あつた入よあつた入あつたまのりり  
か人まのりり△記 西村のまのりりかくまのりり  
人津より程をまのりりて市村を以て  
何事ともまのりりて市村を以て△り  
概不防よま丹をりりて市村を以て△記 大



切多うたのめが春とて後成切りのめ  
 こめとていふに二條と△りもて〔註〕い  
 所中材及之海老等丈の中を身三とん  
 めに付しお鶴のねま成さし成まよも後  
 若やうき付も徳の二條とていふす  
 ちの虫はてり△りねと十分の虫を佐功  
 泥はまゝ〔註〕男が下たおめ人かういふ  
 由とて大んき出あてくきも成さす其の  
 かゝりもあやうと〔註〕よれおまきもわ  
 由のちあてきもいふにいふあやうか  
 ぬれんて△り〔註〕こもれいぬのち  
 やあつたてとやうおせくとまきもあやう  
 ねえゆらまゝとハるゝとていふあやうか  
 あつたてとちあつたてあつたてあつた  
 のちとていふ今うゝとまきもあやうか

上書 ④ 小川吉太郎

〔註〕まねのあやうとめ小川吉太郎は文お  
 おまうをいひあやうとせしおまひけ  
 るくあやうせんぐあやうとていふあやう  
 ちと今のまゝいれはなと△りまの〔註〕と  
 ちとておまひの中を中山百をたまつ  
 り△り小川吉太郎とていふとあやう  
 のちの成りぬまゝいれおまひとていふ  
 ちとていふとていふ〔註〕おまひとていふ  
 かあおまひとていふ田の年人成ちとていふ  
 ちとて中洲とていふ男とあやうとていふ  
 ていふすゝとていふ〔註〕おまひとていふ  
 小川吉太郎とていふおまひとていふ  
 のちとていふおまひとていふおまひとていふ









元座

忠貞堂



第十

表

榮

之三

十二



元座

忠貞堂



第十

表

九



元座

忠貞堂



第十

表

八



第十

表

七

六











































書 同 他野川市翁

田のわらひをききあつていふは佐野川に  
出たのたつてきこはる由の西川よりた  
お船ひす未だなくお船も△もねと進く  
海はかきまへ

書 ① 沢村にむかひ

田のわらひをききあつていふは佐野川に  
出たのたつてきこはる由の西川よりた  
お船ひす未だなくお船も△もねと進く  
海はかきまへ

書 ② 市川井み良

田のわらひをききあつていふは佐野川に  
出たのたつてきこはる由の西川よりた  
お船ひす未だなくお船も△もねと進く  
海はかきまへ

うのきこはる由の西川よりた  
お船ひす未だなくお船も△もねと進く  
海はかきまへ

書 ③ 甲村玉彦翁

田のわらひをききあつていふは佐野川に  
出たのたつてきこはる由の西川よりた  
お船ひす未だなくお船も△もねと進く  
海はかきまへ

書 ④ 大谷万代

田のわらひをききあつていふは佐野川に  
出たのたつてきこはる由の西川よりた  
お船ひす未だなくお船も△もねと進く  
海はかきまへ

半道敷の歌

書 ⑤ 市川翁











平の所大書り女房名入上よの所あつ  
多の物せむせむるうう△△△  
仇村小十左の女房をきつひのせむる  
と書る<sup>尾上</sup>高野の若の中二階のひのきと家  
がとこひ舞をきよひひひ舞をきよひ  
ぶつのもつゝあつておあつてはな  
りておあつておあつておあつて

上書



尾上宗之良

此元 吉村の尊上志書はたかうあ毎  
山行利のあつたの志書未だののう  
本志書本場多城小十左の志書  
月少夜件丁のびのや小十左の志書  
山にふと相小十左の志書  
本志書の女房をきよひつて女房はな

中まの志書小十左の志書  
此元 志書 志書 志書 志書  
ゆがひおん何はれも志書  
く <sup>此元</sup> 志書 志書 志書  
志書とあつた志書  
小方志書とあつた志書  
尾上氏の志書  
志書とあつた志書  
志書とあつた志書

上書



小佐川常世

此元 志書 志書 志書 志書  
志書とあつた志書  
志書とあつた志書  
志書とあつた志書  
志書とあつた志書







圭 回 市川廻り

白様家の出のものが。世の世の至  
舞臺小虎の足が。浦の行貝  
佐七おかうを。おのりや。おのり  
おのり。おのり。おのり。おのり。

圭 嵐 亀の池

今ふ世の。おのり。おのり。おのり。  
おのり。おのり。おのり。おのり。  
おのり。おのり。おのり。おのり。

圭 尾上菊次郎

中村の。おのり。おのり。おのり。

おのり。おのり。おのり。おのり。  
おのり。おのり。おのり。おのり。  
おのり。おのり。おのり。おのり。  
おのり。おのり。おのり。おのり。  
おのり。おのり。おのり。おのり。  
おのり。おのり。おのり。おのり。  
おのり。おのり。おのり。おのり。  
おのり。おのり。おのり。おのり。  
おのり。おのり。おのり。おのり。  
おのり。おのり。おのり。おのり。























天保十二年顏見世

大段書林 河內屋大助叔







